

東海大学

【東海大学工学部航空宇宙学科 航空操縦学専攻留学奨学金】

制度の目標・目的

東海大学工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻は、2006年に開設されたプロパイロット養成コースである。

パイロットは、各航空会社の自社養成や航空大学校で育成されているが、それだけでは絶対数が足りず、パイロット不足が嘆かれていた。そのような状況の中、航空会社からの提案もあり、日本の大学として初めてプロパイロットを養成する航空操縦学専攻が作られた。

パイロット一人の養成にかかる費用は、数千万円と高額である。パイロット養成に掛かる費用に直接、補助金が交付されない私立大学では、どうしても学生の負担額が多くなってしまう。そのため、その負担を少しでも軽減するために開設当初から制定しているのが「東海大学工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻留学奨学金」である。

制度内容

先述のとおり、私立大学のパイロット養成コースは学生の負担が多く、具体的には、通常の授業料に約900万円をプラスして支払うことになる。コスト面での安心感を与え、志願者を増やすという観点からも、開設当初から本奨学金を設置している。

パイロットになるためには、実機による飛行訓練を受けなければいけないが、毎年50人規模を投入し訓練ができる場所は日本国内にはないというのが現状である。そのためアメリカのノースダコタ大学へ1年半留学し、そこで飛行訓練を実施している。その際に掛かる留学費用のための奨学金の支給が本制度である。

金額としては1セメスター50万円の合計150万円の支給であり、飛行訓練のために留



学する学生全員が受け取れる制度となっている。約900万円に対しては大きな金額ではないが、パイロットを目指す学生にとって、少しでも負担感を減らして入学してもらえるのではないかと考えている。

実施後の変化

当初は、日本の大学で初めてということもあり、他大学からの反応はあまりなかったが、航空会社からは高い評価を得ていた。

ANA（全日本空輸株式会社）とは当初から操縦教員の派遣など、産学連携も活発に行ってきた。このような連携の中でも、優秀なパイロットの輩出なども含めて高い評価を得ている。

今後の課題・展望

パイロットの養成が急務ではあるが、やはり学生に掛かる経済的な負担というのは課題である。通常の授業料に加え1,000万円近くの費用が掛かるが給付型の制度のため増額も困難なのが現状である。

しかし、国土交通省が航空会社や当大学のような養成部門を集め行った検討部会において、今後のパイロット養成についての話し合いの結果、学生は本制度とは別に外部の団体からの奨学金も受け取ることができるようになってきている。

本コースでは2018年度に10期目の卒業生を輩出する。数多くの卒業生たちが今も空を舞い、その中には女性機長として活躍されている方もいる。

現在でもパイロット不足が叫ばれる中で、今後も優秀なパイロットを輩出するため、またパイロットを目指す学生の大きな夢を支援するために東海大学の取り組みは続いていく。